著後、小管ノ内壁ガ磨滅シ、恐ラク義齒ハ少シク沈降スルモノナル事ガ報告サレテキル。

臨牀經驗ニヨルト Voßmann ノ「アタッチメント」ハ Roach ノ「アタッチメント」及 Dresch ノ「アタッチメント」ヨリモ利益ノアルモノデアル、余ハ最近度々、Voßmann ノ弾力性アル「アタッチメント」ヲ Geier ノ報告セルト同様ナ症例ニ使用シ、遊離端義齒ニ於テハ臨牀ノニハ Roach ノ「アタッチメント」ヨリモ一層好結果ナル事ガ證明サレタ。斯様ナ症例ニハ余ハ鈎ヨリモ弾力性アル「アタッチメント」ヲ用ヒル事ヲ好ム、然シ鈎モ屢々良好ナル結果ヲ來ス事ガアル、以前他ノ義齒ヲ裝著シテキタ患者ガ、彈性アル「アタッチメント」ヲ利用セル義齒ヲ裝著シ、其ノ据リ心地ノヨイ事ヲ確證シテキル。

Voßmann ノ彈性「アタッチメント」ヲ使用セル義齒ノ修理ハ、非常ニ困難ナルモノデハナイ。金冠カラ小管ガ離レル事ハ起リ得ナイ、最惡ノ場合ニハ過重ノ負擔ノタメ針金ノ端ハ破折サレル事ガアル、斯様ナ場合ニハ、彈力線ノ殘リヲ義齒カラ除去シ、口腔中ニテ新シイ彈力線ヲ、熱イ「モテリング」塊ヲ適當位置ニ附著シ、冷水ニテ冷却シ、義齒全體ヲ口腔ヨリ取出シ、金屬線ノ端ヲ幅 $\frac{1}{2}$ cm ノ「金屬片」ニテ圍ミ、Cement ニテ固定シ埋沒、「ゴム」填メ、蒸和ヲ行フ、余ハ繼續鈎ノ修理モ斯様ニ單純デハナイト思フ。最後ニ Voßmann ノ「アタッチメント」ニ於テハ、其ヲ「ゴム」ニ附著サセルタメ餘分ニ金屬片ヲ鑲著スル必要ハナイ事ヲ述ベテオク。

圖説明

第1圖 Voßmann「アタッチメント」ノ横斷。金屬線ノ端ハ小管ノ内側ニ彈力ヲモツテ接觸シテキル。

第2圖 Voßmann「アタッチメント」ノ縦斷。「アタッチメント」ノ金屬線ノ端ハ、中央カラ外方ニ彎曲シ下方ニテ尖リ互ニ接シテキル、夫故之ニヨリ充分ナ彈力性ト、壓迫作用ノ結果、義齒ノ確固タル据リヲ得ル事ガ出來ル。4=小管 6=彎曲セル金屬線。

第3圖 弾力性ノアル「アタッチメント」義齒ニ加ハル壓ハ、支臺齒ト粘膜ニ分タル、又垂直方向ニハ緩壓裝置トシテ作用スル。(松本寛)

固定架橋義齒「ダミー」基底部材料トシテノ硬質「ガラス」ノ利用

Die Verwendung von Hartglas als Basismaterial bei Brückenzwischengliedern

von Dr. Hans Abel (Z. R. Nr. 14. 1934)

著者ハ口腔粘膜ニ障礙ヲ與ヘザルモノトシテ「ダミー」基底部ニ「ガラス」ヲ應用セル架橋義齒ノ新構成法ニ就キテ記載セリ。

(作製法) 特ニ準備ヲ要スルハ次ノ如シ。

- 1, 直徑 10—20 mm ノ木炭
- 2, Jenaglas ノ棒(直徑 Ca 5 mm)
- 3, 煤煙發生用石油「ランプ」

例トシテ最モ單純ナル、1個ノ缺損齒ヲ補綴セントスル架橋義齒ニ就キテ述ブ。而シテ兩側ノ2

個ノ橋礎金冠ハ既ニ完成シ對合齒模型ト共ニ咬合器ニ固著シアルモノトス。先ヅ、「パラフィンワックス」ヲ「ダミー」ノ來ルベキ模型齒齦上ニ壓接シ其基底部ノ大サニ切り取り、石膏泥ニヨリテ「ワックス」粘膜面ノ陰型ヲ採ル。之ニヨリ、通法ノ如ク易熔合金ヲ用ヒ、約0.1—0.2 mmノ銀鋳ヲ以テ「ダミー」基底部ノ型ヲ打出ス。此銀型ハ金屬製容器ニ埋沒材ヲ以テ埋沒シ(A圖)硬化後赤熱ニ迄乾燥加熱ス。然ル後之ヲ取出シ、銀型上方ニ於テ、「ブローパイプ」ヲ用ヒ「ガラス」棒ヲ徐々ニ加熱シ、必要量ノ「ガラス」ノ軟化セル時之ヲ銀型上ニ滴下シ、直ニ木炭ヲ以テ加壓シタル後「ガラス」ノ入りタル銀型ヲ埋沒材ヨリ剝離シ、石油「ランプ」ニヨリテ周圍萬遍無ク煤煙ヲ塗布シ、急激ナル熱ノ發散ヲ防ギ徐々ニ冷却セシム。蓋シ此ノ間ノ操作ハ數十秒ヲ要スルノミ。

冷却後銀箔ヲ剝離シタル「ガラス」ハ周圍ノ過剩部ヲ「カーボランダム」ヲ以テ削除シ、所定ノ模型粘膜上ニ底面ヨリ「ワックス」ヲ以テ密著セシム。之ニ分離劑ヲ塗布シB圖ノ如ク兩端ニ Inlaywax ヲ置き、中央部ニ埋沒材泥ヲ入レ咬合セシメ其硬化後適宜ニ嚙面調刻ヲナシタル後、其表面ヲモwax ニテ被覆ス。而シテ wax ハ頬舌面ニ於テハ「ガラス」ヲ包ミ隠ス如クスルヲ要ス(C圖)。之ニ「スプルー」線ヲ付ケ模型ヨリ除外スレバ「ガラス」ハ舊位ニ殘留スル故埋沒鑄造ス。

鑄造物ハ橋礎金冠ヲ鑲著シ研磨完了後「ガラス」底ヲ「セメント」ヲ以テ密著セシム。

此方法ニ依レバ、其構造上義齒ヲ清潔ニ保チ易キコト從來ノ如キ陶瓷應用ノモノニ勝ルコト、「ガラス」底ハU字型ニ金屬ニヨリ包圍セラル、故彎曲破折シ難キコト、咬合ノ高サノ如何ヲ問ハズ使用可能ニシテ且ツ容易ナルコト、操作極メテ簡易ナルコト、裝著當初ヨリ天然齒樣感覺ヲ得ベキコト等ノ長所ヲ有シ尙ホ臨牀應用以來1ケ年餘ヲ經ルニ過ギザレドモ經過良好ニシテ所期ノ成果ヲ收メツ、アリト。

鐵筋「コンクリート」法ニヨリ補強セル陶瓷架工義齒

〔抵抗力試驗竝ニ製作術式〕

Bridges de porcelaine armée suivant les méthodes d'armature de béton.

[Essais de resistance et technique de construction]

Paul Gonon et René Lakermance (L'odontologie No. 8, 1934)

陶瓷ニヨル架工義齒ハ審美的衛生的ニ優レテ居ルガ破折シ易イ缺點ガアル。從來種々補強法